

10th

明治大学 平和教育 登戸研究所 資料館

明治大学平和教育登戸研究所資料館

設立趣旨

本研究所は、戦国日本の戦争・紛争を知らしめ、きわめて貴重な戦争遺跡である、登戸研究所は、戦争には必ず「勝つ」「負ける」「勝つ」「負ける」という側面を併せていた研究所であり、そのため、その活動は、戦争の歴史を伝える役割を担っている。私たちはこうした戦争の歴史を伝える役割を担い、戦争の本質や戦国日本の歴史を伝えてきた活動の一環を、活動に発展に努めていく必要がある。

私たちは、登戸研究所の研究施設であったこの建物を保存・活用して「明治大学平和教育登戸研究所資料館」を設立し、登戸研究所という施設をおこなったことから本館に由来し、大学として歴史教育・平和教育・科学教育の拠点とする上にも、多岐にわたる、登戸研究所を戦争遺跡として保存・活用することを含め、地産地消活動を通じて地域住民・教育者の方々と連携の場としていきたいと考えている。

2010年3月29日

The former Imperial Japanese Army
Nishitama Laboratory Museum
for Education in Peace

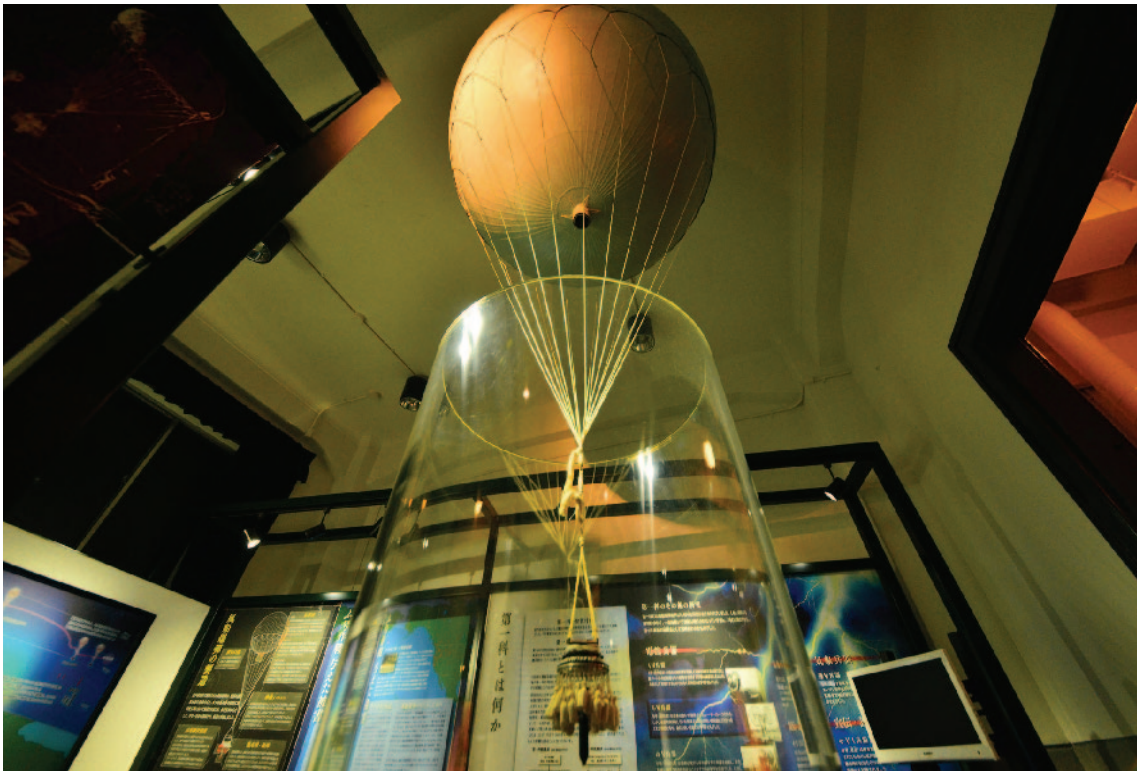
Purpose of Establishment

The former Imperial Japanese Army, Nishitama Laboratory, Museum for Education in Peace

10年のあゆみ



資料館開館セレモニー（2010年3月29日）



風船爆弾 1/10 模型（第二展示室）

明治大学平和教育登戸研究所資料館
開館 10 周年記念誌
10 年のあゆみ

目 次

巻頭言	館長 山田 朗	1
明治大学平和教育登戸研究所資料館 10 年の活動		5
1 来館者数		5
2 活動内容		5
3 資料		21
4 広報		23
5 刊行物		24

巻 頭 言

明治大学平和教育登戸研究所資料館長 山田 朗（文学部教授）

設立 10 周年をむかえるにあたり、本資料館がどのような経緯で設置されたのかを中心に、あわせて設置後の 10 年で得られたこともまとめてみたい。

(1) 登戸研究所の調査・保存運動の始まり

1945（昭和 20）年の敗戦後、生田の旧陸軍登戸研究所跡地とその建物群は、慶応義塾大学・北里研究所・巴川製紙などが使用していたが、1950 年、明治大学がそのうち第一科・第二科・第三科が配置されていた部分の土地と建物を取得した（1951 年度より農学部が使用を開始）。

生田キャンパス内にはその後も登戸研究所当時の建物が多数残されていたが、1964 年に工学部が移転してきたことを契機として、建物の立替えや新築が相次ぎ、戦前以来の建物の取り壊しが進んだ。1980 年代末には、登戸研究所第二科の鉄筋建物 2 棟（36 号棟・44 号棟）と第三科の木造建物 2 棟（5 号棟・26 号棟）、^{やごころ}弥心神社（現・生田神社）・動物慰霊碑・消火栓（2 基）・「弾薬庫」（実際には薬品等の倉庫と思われる施設 2 ケ所）を残すのみとなった。

登戸研究所の遺跡の調査・保存運動は、1980 年代からジャーナリストや市民の取り組みとして始まり、市民による見学会なども実施されるようになった。また、登戸研究所の元職員の人びとも、往時をしのんで集まるようになり、1988 年には旧弥心神社境内に「登戸研究所跡碑」を建立するなどした。登戸研究所に関する調査は、生田において 1987 年から、伊那（敗戦直前における移転先）においては 1989（平成元）年から、歴史教育者（法政大学第二高等学校・渡辺賢二教諭や長野県赤穂高等学校・木下健蔵教諭ら、当時）によって高校生とともに行われるようになった。

(2) 明治大学における調査・研究・保存活動

明治大学においても次第に登戸研究所遺跡の調査・保存を求める動きが広まり、1995 年には、海野福寿文学部教授・森恒夫経営学部教授を代表とする「旧陸軍登戸研究所の総合的研究」（～1997 年度）が始まった。この研究成果は後に海野ほか編『陸軍登戸研究所——隠蔽された謀略秘密兵器開発——』（青木書店、2003 年）として刊行された。1998 年には戸沢充則学長（当時）が登戸研究所跡地の保存活用方針を打ち出し、翌 99 年には農学部長を委員長とする「登戸研究所跡地の保存及び活用に関する検討委員会」が設置されるにいたった。

しかし、当時の明治大学には、学内に急進的なスローガン掲げる政治セクトが強い影

響力を行使しており、彼らも「登戸研究所の保存」を主張していたこともあり、遺跡の保存・活用の取り組みは必ずしも一筋縄では進まなかった。明治大学が大学として、登戸研究所遺跡の保存・活用へと歩を進めるのは2000年の「学内正常化」の達成を待たねばならなかった。

2005年、登戸研究所の元所員の有志団体である「^{とけんかい}登研会」代表・^{げんぞう}山田愿蔵氏からの納谷廣美学長（当時）宛の遺跡保存を求める手紙が契機となり、学内遺跡の保存・活用のための検討が具体的に進みだした。2006年には坂本恒夫教務部長（当時）を委員長とする「登戸研究所明治大学展示資料館（仮称）の設置に関する検討委員会」（以下、「検討委員会」）が設置された。また、同年には市民運動団体として「旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎市民の会」が結成され、遺跡の保存・活用のあり方をめぐって明治大学と意見交換をするようになった。

(3) 準備室設置から資料館開館まで

2007年3月、「検討委員会」の下に「登戸研究所展示資料館（仮称）展示専門委員会」（委員長・山田朗文学部教授）が設置され、資料館の性格、展示内容、レイアウトなど検討が始まった。同委員会は、36号棟の調査をした上で、6月に「検討委員会」に対する中間報告をおこない、①36号棟を展示資料館として保存し、登戸研究所の全貌を伝える歴史教育・平和教育・科学教育にふさわしい施設とすること、②登戸研究所に関する資料・文献・証言を収集すること、③平和教育の発信地として、明治大学における研究・教育に役立てるとともに一般に公開すること、というコンセプトが提示された。同月、「展示専門委員会」は生田キャンパスで現地見学会と講演会、展示資料館説明会を開催した。同委員会は、2008年2月まで断続的に開催され、資料館の基本理念と主な展示内容を決定する役割を果たした。

「展示専門委員会」の報告をうけて「検討委員会」は、2008年7月、「登戸研究所明治大学展示資料館（仮称）設置準備室」（以下、準備室、室長は山田。所管部署は教務部教務事務室、高山茂樹事務長）が駿河台の研究棟内に開かれ、資料の収集と具体的な展示方針・展示内容の検討が始まった。また、展示資料館設立のための学内調整機関としてのワーキンググループ（以下、WG、教務事務室・施設課・博物館・準備室などが参加）が設置され、すでに6月から活動を始めていた。WGはほぼ毎週開催され、7月末からは展示物の施工にあたる乃村工藝社も参加して活発な議論が展開されるようになった。しかし、それぞれがより良い資料館を作ろうと努力を傾注したものの、登戸研究所そのものに対する知識が共有されておらず、また、前述の学内の混乱の余波がこの頃まで残っており、作業は試行錯誤の連続であった。なお、「検討委員会」において資料館の開館は、2009年度内ということが決定されていた。準備室の開設から資料館の開館まで1年半という非常にタイ

トな作業日程が組まれたのは、「登研会」の山田代表をはじめとして関係者の高齢化が進む中で、一日も早い開館が目指されたからであった。

資料館設立準備作業は、36号棟の改修工事をWGが、資料の収集と展示内容の決定を準備室が、そのパネル化と模型の製作を乃村工藝社が分担する形で進展した。

登戸研究所時代には穀物を枯らすための細菌兵器の開発などが行われていた36号棟は、戦後、農学部が植物学・土壌研究などの実験室として長く使用していたため、研究所時代の間仕切りとは別にさらに部屋が細かく分割されていたので、これを原形に戻し、戦後に設置された物品を撤去する必要があるがあった。なるべく研究所時代の建物を復元するという作業が基本となったが、他方、現代の博物館として最低限度の設備は新たに設ける必要があった。とりわけ36号棟には元々トイレがなかったため、それは新設することになった。

準備室では、資料収集と整理を専任の学芸員（嘱託職員2名）があたり、山本智之・斎藤一晴文学部兼任講師と日本現代史の大学院生6名が5つの展示室をそれぞれ分担してパネル案を作成、渡辺賢二文学部兼任講師と室長が全体を統括する態勢をとっていたが、当時、登戸研究所の詳細についてはまだ不明な点が多く、なかなか展示内容とレイアウト案が決まらず、準備室は悪戦苦闘を強いられた。準備室の作業の遅滞は展示制作にあたる乃村工藝社の仕事を圧迫することになり、準備室と乃村との打ち合わせはしばしば深夜に及ぶことになった。

2009年に入り、作業は遅れ気味ながらも次第に具体的な姿を現すようになったが、2009年12月に準備室の専任学芸員であった森麻弥氏が過労が祟って入院するというアクシデントもあり、パネルの説明文やキャプションの修正は2010年に入っても続けられた。展示パネルは、透過スクリーンへの印刷方式であったため、後からの部分修正はきかず、何度も校正をくりかえして完璧を期したが、パネル原稿を乃村工藝社に返す時は、いつも徹夜作業であった。

ぎりぎりまで2009年度内の開館が危ぶまれたが、「展示資料館」は正式名称を「明治大学平和教育登戸研究所資料館」（略称：登戸研究所資料館）とすることも決まり、2010年3月29日に開館式典が挙行され、4月7日から一般公開が始まった。

(4) 資料館開館から今日まで

資料館開館をもって準備室の仕事は終了し、資料館事務室がその後の仕事を引き継いだ。資料館には専任学芸員として特別嘱託2名、短期嘱託1名が配置され、その他に日替わりでアルバイトとして大学院生1名に来てもらっている。準備室時代もめまぐるしかったが、開館後も依然として多忙な日々が今日まで続いている。資料の収集、聞き取りは絶え間なく続けられているし、毎年の企画展もアイデアに窮したことがなく、常設展示の不足を補う重要な役割を演じている。年報である『資料館報』も2015年度から刊行している。ま

た、本資料館は、展示の質を高めることを追究する一方で、「ヒトがヒトに伝える」というやり方を重視している。そのため月2回の定期見学会だけでなく、来館者から希望があった場合には、可能な限り、遺跡と展示室の解説を丁寧に行うことをこころがけている。

開館から10年を経過し、光陰矢の如しの感が強いが、明治大学がこのユニークな資料館を作ったことが、日本における、いやアジアにおける戦争遺跡保存運動や研究・調査を活性化させたことは確かである。中国ハルビンの731部隊の資料館は最近、展示をリニューアルしたが、登戸研究所について1室を配して詳しい展示をおこなっている。また、登戸研究所が敗戦前に移転した長野県でも、近年、登戸研究所に関する調査・研究が従来にもまして盛んになり、資料館設置の運動がひろがっている。

戦争の記憶の継承の重要性が叫ばれて久しいが、登戸研究所の記憶は、私たちが意識的に残そう、資料を発掘しようと努力しない限り、歴史の中から抹殺されてしまう恐れがある。日本がおこなった戦争をどのように捉えるか、という点ではいくつもの評価があるが、どのような判断を下すにせよ、それは歴史上の事実にもとづく議論でなければ、後世に語り継ぐことはできない。私たちは、たとえ語ることが辛いものであっても、平和な未来を構築するためには、何が事実であったのか、戦争が人間をどのように変えてしまうものなのかを、冷静に語り継いでいかなければならない。その発信拠点として本資料館が役割を果たすことができれば、登戸研究所の調査・研究・保存の活動に尽力されてきた多くの先人たちの思いを継承することができると考えている。

2020年3月29日

明治大学平和教育登戸研究所資料館 10年の活動

1 来館者数

年度	開館 日数	来館者数 (人)	団体見学	
			学校等	一般
2010	208	11,185	10校/ 400人 ^{※1}	109団体/ 3,374人
2011	215	6,751	23校/ 378人	177団体/ 3,718人
2012	218	7,019	34校/ 1,367人	149団体/ 2,532人
2013	217	6,889	29校/ 1,329人	124団体/ 1,811人
2014	224	8,733	34校/ 1,845人	219団体/ 2,952人
2015	219	8,176	42校/ 1,182人	163団体/ 2,797人
2016	207	7,595	35校/ 1,361人	141団体/ 2,481人
2017	207	8,314	32校/ 1,220人	176団体/ 2,684人
2018	207	9,094	5校/ 509人	139団体/ 2,348人
累計	1,922	73,756	284校/ 9,591人	1,397団体/ 24,697人

※1 概算

2018年3月末現在

2 活動内容

(1) 企画展

●第1回 戦争遺跡写真展

登戸研究所から戦争遺跡をみる ―川崎を中心に―

【会期】 2010年11月3日～12月18日 (31日間)

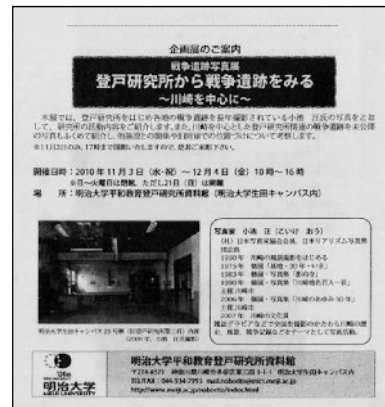
【来場者数】 2,105人 (66.0人/日)

【関連イベント】

上映会・講演会 (2010年11月3日)

第1部 映画「帝銀事件 死刑囚」上映会

第2部 講演「登戸研究所と秘密戦」(山田朗)



●第2回 風船爆弾の風景 2011

―風船爆弾の「現場」から今をみつめる―

【会期】 2011年10月26日～12月17日 (41日間)

【来場者数】 1,535人 (37.0人/日)

【関連イベント】

①関連展示「ミニ気球ランプシェード展示」

②体験展示「気球素材にさわってみよう」



③ワークショップ「和紙つくり・紙すき体験」(2011年11月18日, 19日)

④展示解説会(小山亮, 2011年11月19日, 20日)

●第3回 キャンパスにあった偽札印刷工場 -5号棟調査報告-

【会期】 2012年11月21日~2013年3月9日

(会期延長, 59日間)

【来場者数】 2,104人(36.3人/日)

【関連イベント】

①ワークショップ「凸版印刷でオリジナルはがきを作ってみよう」(2012年11月23日~25日)

②企画展示解説会(山田朗, 2012年11月23日~25日, 2013年2月23日)

③証言会「元登戸研究所勤務者が語る『陸軍の秘密戦研究所』」(証言者 元勤務員2名, 陸軍中野学校卒元特務機関員1名, 2013年3月9日)



●第4回 本土決戦と秘密戦 -その時登戸研究所は何をしていたか-

【会期】 2013年11月20日~2014年3月29日

(会期延長, 72日間)

【来場者数】 2,474人(34.4人/日)

【関連イベント】

①ワークショップ
「風船も兵器に? -和紙でランプシェードを作ってみよう」(2013年11月23日, 24日)



②企画展示解説会(山田朗, 2013年11月23日, 24日, 2014年2月22日)

③証言会「元登戸研究所関係者が語る『登戸研究所の移転・疎開』」(証言者 元勤務員5名, 2013年12月21日)

④講演会「本土決戦・登戸研究所・中野学校」(山田朗, 2014年1月11日)

⑤中野キャンパスサテライト展示(2013年12月2日~20日, 2014年2月15日~3月20日)



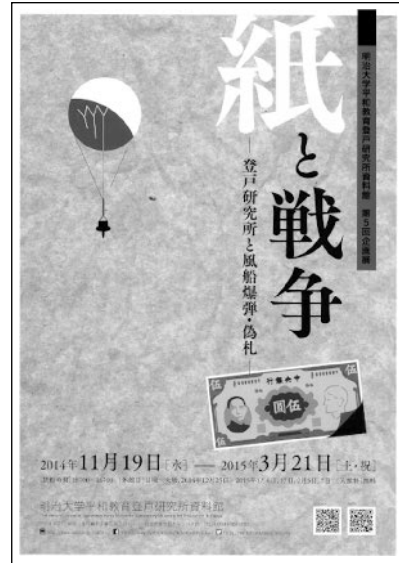
●第5回 紙と戦争 —登戸研究所と風船爆弾・偽札—

【会期】 2014年11月19日～2015年3月21日（69日間）

【来場者数】 2,831人（41.0人/日）

【関連イベント】

- ①企画展示解説会（山田朗，2014年11月22日，23日，
2015年2月28日）
- ②講演会「紙と戦争—登戸研究所と風船爆弾・偽札—」
（山田朗，2015年1月10日）
- ③開館5周年記念講演会（2015年3月21日）
第一部 講演「秘密戦兵器研究に於ける紙と製紙会社
の果たした役割」（小林良生氏）
第二部 対談「登戸研究所と紙」
（小林良生氏，山田朗）



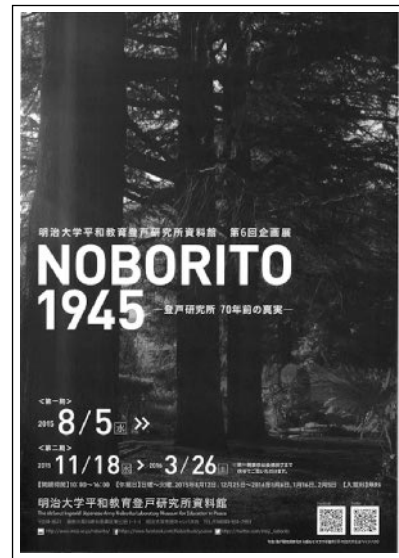
●第6回 NOBORITO 1945 —登戸研究所70年前の真実—

【会期】 2015年8月5日～2016年3月26日（141日間）

【来場者数】 5,365人（38.6人/日）

【関連イベント】

- ①展示解説会（山田朗，2015年11月21日，22日，
2016年2月27日）
- ②講演会
第1回「NOBORITO 1945 —8月15日までの登戸
研究所— 本土決戦準備と登戸研究所」
（山田朗，2015年8月22日）
第2回「NOBORITO 1945 —8月15日以降の登戸
研究所— 戦後の登戸研究所と所員たち」
（山田朗，2016年1月9日）
第3回（2016年3月26日）
第一部「長野県に疎開した登戸研究所と高校生達との調査」（木下健蔵氏）
第二部 パネルディスカッション（木下健蔵氏，山田朗，渡辺賢二）
- ③証言会「元登戸研究所関係者による証言会 —1945年の登戸研究所—」
（証言者 元勤務員3名，元陸軍兵器行政本部タイピスト1名，2015年10月24日）



●第7回 「登戸」再発見 —建物と地域から追う登戸研究所の姿—

【会期】 2016年11月16日～2017年3月25日
(67日間)

【来場者数】 2,684人(40.0人/日)

【関連イベント】

- ①講演会「建物と地域から追う登戸研究所の姿」
(山田朗, 2016年11月20日)
- ②企画展示解説会(山田朗, 2017年1月28日,
2月25日)
- ③証言会「登戸研究所で働いていた人に聞く登戸研究所
の姿 —15歳の戦争—」(証言者 元勤務員2名,
2017年3月11日)
- ④スタンプラリー「登戸研究所の史跡 探検! ラリー」



●第8回 科学技術と民間人の戦争動員

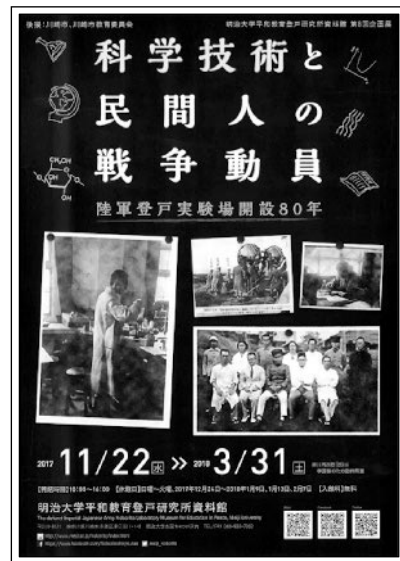
—陸軍登戸実験場開設80年—

【会期】 2017年11月22日～2018年3月31日
(70日間)

【来場者数】 2,882人(41.2人/日)

【関連イベント】

- ①展示解説会(山田朗, 2017年11月26日, 2018年
1月20日, 2月24日, 3月24日)
- ②講演会「科学技術と民間人の戦争動員」
(山田朗, 2017年12月9日)



●第9回 帝銀事件と登戸研究所 —捜査手記から明らかになる旧日本陸軍の毒物研究—

【会期】 2018年11月21日～2019年5月11日(会期延長, 93日間)

【来場者数】 5,077人(54.6人/日)

【関連イベント】

①展示解説会（山田朗，2018年11月24日，2019年1月26日，3月23日，4月27日，5月3日，4日，11日）

②講演会「帝銀事件と登戸研究所」（山田朗，2018年12月15日）

③特別プログラム1

第1回講演会「帝銀事件の再審請求を求め続けた平沢貞通さん」（2018年12月1日）

「平沢貞通さんの自白をめぐる諸問題について」（酒田芳人氏）／「高校生の見た最晩年の平沢貞通老—宮城刑務所での面会に通う」（細川次郎氏）／「帝銀事件再審請求の経過に関する心理学的検討について—ディスコミュニケーション分析の視点から」（山本登志哉氏）

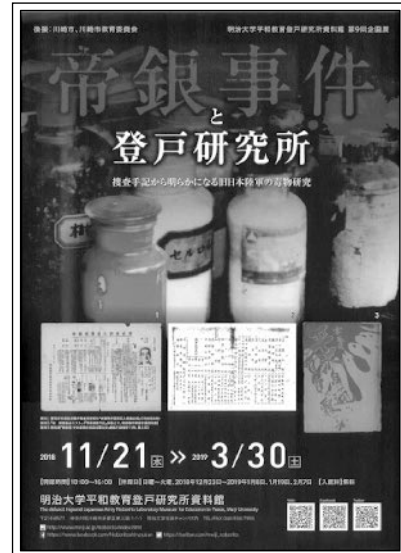
第2回講演会「帝銀事件第二十次再審請求の現状」（2019年1月26日）

「第二十次再審請求に提出された自白・目撃供述の心理学鑑定書」（浜田寿美男氏）／「冤罪事件の原点としての帝銀事件」（山際永三氏）／「帝銀事件の毒殺の手口と毒物の謎をめぐる」（渡邊良平氏）

④特別プログラム2

映画「帝銀事件 死刑囚」上映会（2019年2月23日，5月25日）

⑤講演会「登戸研究所所員が語った帝銀事件とその検証」（山田朗，渡辺賢二，2019年5月4日）＊国際博物館の日記念事業として開催



●第10回 少女が残した登戸研究所の記録

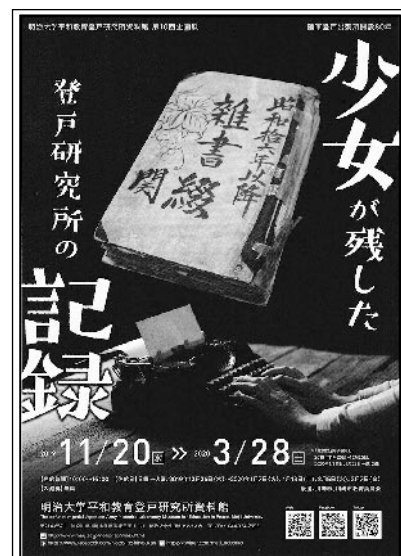
—陸軍登戸出張所開設80年—

【会期】 2019年11月20日～2020年3月28日
(66日間 (予定))

【関連イベント】

①講演会「少女が残した登戸研究所の記録・『雑書綴』発見秘話」（渡辺賢二，2019年12月7日）

②展示解説会（山田朗，2019年11月30日，12月21日，2020年1月11日，2月29日，3月28日 (予定)）



(2) 他館との連携事業

横須賀市自然・人文博物館附属馬堀自然教育園開園 60 周年,

登戸研究所資料館開館 10 周年コラボ企画

- コラボ展示 1 「横須賀にあった極秘機関 ―陸軍登戸研究所と横須賀」

【会場】横須賀市自然・人文博物館本館 3 階ラウンジ

【会期】2019 年 7 月 27 日～11 月 16 日 (97 日間)

【来場者数】19,856 人 (204.7 人/日)

- コラボ展示 2 「戦争遺跡写真パネル展 ―近郊の戦跡を訪ねて」

【会場】登戸研究所資料館

【会期】2019 年 7 月 27 日～11 月 3 日 (57 日間)

【来場者数】1,832 人 (32.1 人/日)

- コラボ講演会 1

「近代建築史から陸軍登戸研究所を読み解く」

【日程】2019 年 10 月 19 日

【講師】菊地勝広氏

(横須賀市自然・人文博物館学芸員)

【会場】明治大学生田キャンパス第一校舎 2 号館

200 教室

【来場者数】47 人

- コラボ講演会 2 「横須賀にあった極秘機関 GPSO ―陸軍登戸研究所と横須賀」

【日程】2019 年 11 月 16 日

【講師】山田 朗 (登戸研究所資料館 館長)

【会場】横須賀市自然・人文博物館本館 講座室

【来場者数】118 人

- 野外学習会「自然と歴史のツアー」

【日程】2019 年 11 月 16 日

【解説者】内船俊樹氏 (横須賀市自然・人文博物館学芸員), 菊地勝広氏 (同前),

柴田健一郎氏 (同前), 山本薫氏 (同前), 山田朗 (登戸研究所資料館館長), 塚本百合子

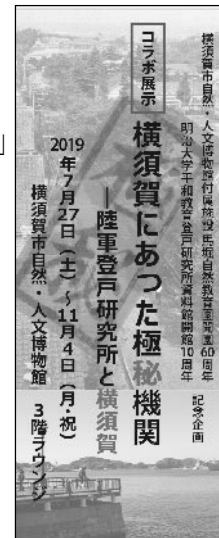
(同館学芸員)

【会場】馬堀自然教育園

【参加者数】20 人

- スタンプラリー「横須賀と登戸をつなぐヒミツを解き明かせ！」

【会期】2019 年 7 月 27 日～11 月 4 日 ※登戸研究所資料館は 11 月 3 日まで



【会場】横須賀市自然・人文博物館、登戸研究所資料館

【参加者数】1,184人

(3) その他イベント

①五号棟解体前見学会

(2011年2月20日, 来場者数: 約600人)

②実物展示

- ・登戸研究所製造「六連偽札」

(2014年4月15日～5月3日)

③国際博物館の日記念事業

- ・中野キャンパス出張展示 第6回企画展「NOBORITO 1945」

ポスター展 (2016年5月18日～6月10日)

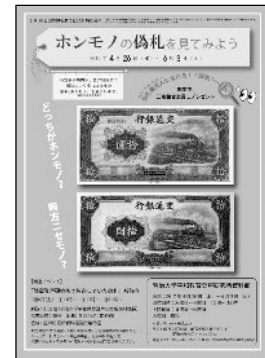
- ・記念特別展示「ホンモノの偽札を見てみよう」

(2017年4月26日～6月3日)

- ・「陸軍登戸研究所製造謀略兵器実演」(2018年5月12日)

- ・「登戸研究所所員が語った帝銀事件とその検証」講演会

(2019年5月4日), 企画展展示解説会 (2019年4月27日,
5月3日(午前/午後), 4日, 11日) および映画「帝銀事件
死刑囚」上映会 (2019年5月25日)



④オープンキャンパス

- ・史跡・館内ツアー (2016年8月7日)

- ・展示解説・陸軍史跡スタンプツアー (2017年8月8日, 9日)

- ・展示解説・陸軍史跡スタンプツアー (2019年8月7日, 8日)

⑤証言会ほか (単独開催分)

- ・「風船爆弾製造作戦従事者による証言会」(証言者
元学徒動員女学生7名, 2017年10月21日, 来場
者数: 150人)

- ・「元登戸研究所関係者の座談会」

(証言者 元勤務員2名, 2018年3月10日, 来場者
数: 119人)



「風船爆弾製造作戦従事者による証言会」

⑥中野キャンパスサテライト展示

- ・第4回企画展「本土決戦と秘密戦」パネル展 (2013年12月2日～20日, 2014年
2月15日～3月20日)



五号棟解体前見学会

- ・第6回企画展「NOBORITO 1945」パネル展
(2016年5月18日～6月10日)

*国際博物館の日イベントとして開催



中野キャンパスサテライト展示

⑦その他

- ・特別パネル展示「戦争と医の倫理 日本の医学者・医師の『15年戦争』への加担と責任」(「戦争と医の倫理」の検証を進める会共催, 2012年9月12日～11月5日)
- ・開館3周年記念イベント 第一部 記念講演会(山田朗), 第二部 映画「陸軍登戸研究所」上映会(2013年3月30日)
- ・写真展示 戦争遺跡保存全国ネットワーク「平和のための戦争遺跡の保存を求めて」協力(2014年7月16日～10月25日)
- ・屋外作品展示「鉄の造形 武田美通展」(戦死者たちからのメッセージを広める会主催, 2014年8月15日～21日)
- ・出張展示
しんゆりマルシェ 2016「明治大学農学部 本所靖博研究室」ブース内(2016年8月28日), 黒川農場収穫祭「かわさきかえるプロジェクト×明治大学本所ゼミ」ブース内(2016年11月12日)

(4) 常設展示追加

全般

展示紹介 DVD
常設展示補修
資料館放映 DVD 証言紹介シート

エントランスおよび廊下

五号棟部材一式
「母屋桁」
佐藤耕寛画「漁待つ人々」
登戸研究所史跡拓本 協力：稲田善樹氏

第一展示室

「日本高等拓植学校」パネル 写真データ提供：上塚芳郎氏
「状況申告」(複製)
「昭和十八年七月二十六日 企画委員会記録」(複製)
「登戸研究所職員証バッジ」(複製) 協力：元登戸研究所勤務員

第二展示室

「風船爆弾用気球紙製 表彰状」 (複製)
「陸軍技術有功章賞状」
綴じ込み資料「気球紙断面顕微鏡写真」 協力：株式会社荻野商店
風船爆弾気球紙，材料 ハンズオン展示

第三展示室

元第二科第一班長 伴繁雄旧蔵品一式

第四展示室

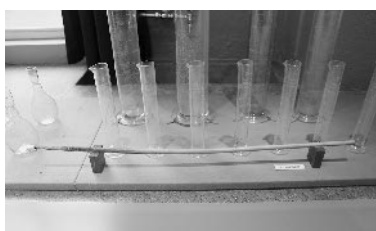
「中国交通銀行券 10 元札〔真札〕」
「中国中央銀行 1,000 元札」
ハンズオン展示 「ニセモノ？ホンモノ？」 (真札，偽札の比較)
「終戦前後のインフレで中国が発行した高額紙幣」解説

第五展示室

「石井式濾水機濾過筒」
「九八式衛生濾水機丙」 (実物大模型) 協力：陸上自衛隊衛生学校医学情報史料室彰古館
「木箱」
「焼夷剤」 (模型) 協力：元登戸研究所勤務員
「登戸研究所製造謀略兵器と思われるもの」
「登戸研究所中沢分室跡 採取物」
「石井式濾水機濾過筒」解説シート

資料館エントランス脇

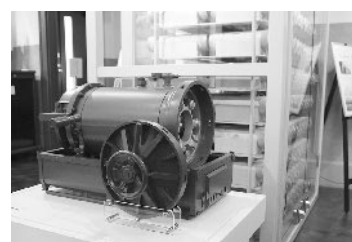
「楮」植樹 (参考展示)



「登戸研究所製造謀略兵器と思われるもの」
(手前)



「登戸研究所職員証バッヂ (複製)」



「九八式衛生濾水機丙 (実物大模型)」と
石井式濾水機濾過筒展示ケース (奥)

(5) 調査・研究活動ほか

①学内での調査

- ・「五号棟部材」調査 (2011年6月9日～2012年5月19日)
- ・「濾過筒」調査 (2013年1月31日～4月10日)
- ・明治大学生田キャンパス電機室保管旧校舎関係資料調査 (2013年2月6日～3月)



22日)

- ・「倉庫跡」調査，内部実測（2015年3月17日）
- ・「国民食器」破片調査（2017年4月23日～27日）
- ・「防火水槽」新規発見および調査（2018年12月5日）



新たに確認された「防火水槽」


②外部への調査・視察

内容	訪問先など	期間	備考
元登戸研究所勤務員・ 関係者証言収集		随時， 継続中	
「石井式濾水機濾過 筒」ほか調査	長野県駒ヶ根市 元登戸研究所員宅	2010年 10月25日	
印刷博物館視察， 資料収集		2012年 6月19日， 7月10日	
お札と切手の博物館 視察		2013年 2月25日	
松代大本営地下壕跡 視察	長野県長野市	2013年 6月9日～ 10日	協力：松代大本営の保存をす すめる会  松代大本営 厠跡
「石井式濾水機」調査	陸上自衛隊医学情 報史料室 彰古館	2013年 7月23日	
本土決戦関連ならびに 東京湾要塞関連施設 調査	神奈川県三浦市， 横須賀市	2013年 7月30日	
東京湾要塞跡視察	千葉県館山市， 南房総市	2013年 8月13日	視察先：128高地地下壕跡， 館山海軍航空隊赤山地下壕 跡，下滝田基地桜花カタパル ト式滑走路跡ほか 協力：安房文化遺産フォーラ ム  128高地地下壕「戦闘指揮所」入口

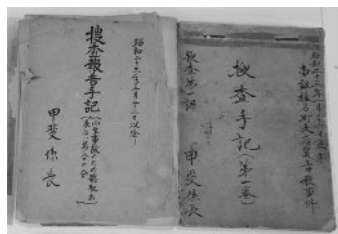
陸軍登戸研究所疎開地 実地調査および元関係 者聞き取り調査	長野県駒ヶ根市, 同, 上伊那郡飯島町 および宮田村	2013年 9月15日～ 16日, 2015年 5月31日～ 6月1日, 2016年 8月20日～ 21日	協力：木下健蔵氏, 宮下与兵衛氏, 寶珠山真慶寺, 元登戸研究所勤務員, 駒ヶ根市教育委員会, 飯島町立飯島小学校, 宮田村教育委員会ほか  元登戸研究所疎開先小学校での調査
旧連合艦隊地下壕視察	神奈川県横浜市	2013年 11月18日	協力：日吉台地下壕保存の会
旧第二海軍技術廠 牛尾実験所跡ほか視察	静岡県島田市	2014年 5月19日	協力：島田市教育委員会, 島田宿・金谷宿史跡保存会
紙の資料館視察, 資料収集		2014年 4月22日	
製紙産業関係機関視察 および 風船爆弾製造動員 川之江高等女学校卒業 生 聞き取り調査ほか	愛媛県四国中央市, 高知県吾川郡いの 町ほか	2014年 7月13日～ 15日	協力：小林良生氏, 宮地亀好氏, 愛媛県立川之江高等女学校第33回生, いの町紙の博物館, 株式会社ヘイワ原紙, 株式会社モリシカ, 紙の町資料館, 高知県立紙産業技術センター, 鹿敷製紙株式会社, 内外典具帖紙株式会社, 藤原製紙所ほか
風船爆弾用紙関係資料 調査	埼玉県小川町	2014年 10月30日	協力：小川町教育委員会, 埼玉県小川和紙工業行動組合
風船爆弾製造動員 高崎高等女学校卒業生 聞き取り調査	群馬県高崎市	2015年 6月15日	
旧登戸研究所第三科寮 調査	神奈川県川崎市	2015年 6月30日	協力：登戸研究所保存の会 森田忠正氏
米海軍横須賀基地内 GPSO 使用建物 視察	神奈川県横須賀市	2015年 10月15日	協力：米海軍横須賀基地
馬堀自然教育園内旧日 本陸軍重砲兵学校遺構 調査	神奈川県横須賀市	2016年 1月27日, 2019年 10月23日	協力：横須賀市自然・人文博物館
登戸研究所跡地登記簿 調査	横浜地方法務局 麻生出張所	2016年 12月13日, 20日	

生田緑地地下壕視察	神奈川県川崎市	2018年 3月20日	協力：川崎市，登戸研究所保存の会
元第六陸軍技術研究所勤務員聞き取り調査		2018年 4月26日	
走水低砲台跡調査	神奈川県横須賀市	2019年 10月10日	協力：横須賀市自然・人文博物館，横須賀市公園管理課

③これまでの主な研究成果

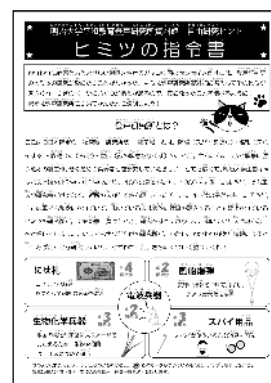
研究成果	協力者ほか
登戸研究所疎開先（長野県駒ケ根市，飯島町，宮田村ほか）での新資料発見	木下健蔵氏，駒ケ根市教育委員会，飯島町立飯島小学校，宮田村教育委員会ほか
元登戸研究所第三科勤務員 大島康弘旧蔵資料「大島コレクション」寄託による登戸研究所第三科の偽札製造現場の実相の解明	明和グラフィア株式会社
元登戸研究所第三科長 陸軍主計大佐 山本憲蔵旧蔵資料貸与を第三科偽札製造の実態の解明	狛江市教育委員会ほか
元風船爆弾製造動員女学生聞き取り調査による風船爆弾製造現場の実態解明	高崎高等女学校卒業生，川之江高等女学校卒業生，新京高等女学校卒業生ほか
旧登戸研究所偽造法幣工場 五号棟 床排水溝造成時期・目的の解明	川村史郎農学部准教授（当時）
元登戸研究所庶務科員 陸軍大尉 大月陸雄「大月日誌」受贈による1945（昭和20）年1月1日から8月3日における登戸研究所実相の解明	
日本高等拓植学校関係資料と「元第九陸軍技術研究所構内建物実測概要書」データ提供による登戸研究所解散直後の土地利用の解明	上塚芳郎氏
「儲備券用紙綴」受贈による偽造法幣試抄紙の「漉かし」ほか開発過程の実態の解明	
「登戸研究所製造 謀略兵器[と思われるもの]」，「登戸研究所中沢分室跡採取物[証拠隠滅残滓]」受贈による長野県南伊那地域での登戸研究所の疎開先における実態の解明	矢澤古里氏，駒ケ根市教育委員会

元登戸研究所第三科北方班勤務員による偽造法幣抄紙に関する聞き取り調査と実相の解明	元登戸研究所勤務員 岸井三治氏
旧 GPSO（米政府印刷補給所）勤務に関する聞き取り調査と実態の解明	元登戸研究所勤務員
元登戸研究所第一科長 陸軍少将 草場季喜旧蔵写真「写真 15m 気球」、自筆メモほか貴重資料「草場コレクション」一括受贈による風船爆弾作戦終了後の研究継続を示す新資料の発見	
帝銀事件関連文書 元警視庁第一課 甲斐文助「甲斐手記」借用調査と登戸研究所第二科による化学兵器開発内容の解明	一ノ瀬法律事務所



(6) 教育ツールの充実

- ①ワークシート改訂
- ②登戸研究所双六
- ③幼児向け めりえシート
- ④夏休み自由研究ガイドおよび保護者用指南書製作
- ⑤ご意見ボード設置



夏休み自由研究ガイド

(7) 学内、地域社会および外部と連携した活動

①大学内授業での活用

- ・駿河台キャンパス・生田キャンパス全学共通総合講座「登戸研究所から考える戦争と平和」（2011 年度～）
- ・生田キャンパス理工学部専門科目「技術者倫理」（2015 年度～2018 年度，担当：小西義昭理工学部講師）




- ②社会教育主事課程授業「登戸探求プロジェクト」協力（2014 年度，2015 年度）



③川崎市民との連携

- ・市民団体である登戸研究所保存の会との定期的意見交換会の開催（年一回）
- ・多摩区3大学知的探訪ほか各種イベント協力
- ・登戸研究所保存の会推薦による、生田キャンパス内登戸研究所関連史跡の川崎市地域文化財「戦争遺跡旧陸軍登戸研究所の遺構群」認定（2018年11月）

④その他

事項	期間	備考
風船爆弾球皮製作実験	2010年 7月14日, 10月27日	協力：川村史郎農学部准教授（当時）, 旧陸軍登戸研究所の保存を求める川崎 市民の会 宮永和子氏 
第18回戦争遺跡保存全国シンポジウム（戦争遺跡保存全国ネットワーク2014年度全国大会）	2014年 8月16日～ 18日	共催
神奈川県博物館協会主催講演会 「博物館の未来をさぐる—その機能と手法—」報告	2014年 9月28日	
第13回平和のための博物館・市民ネットワーク全国交流会	2014年 10月25日～ 26日	共催
第56回社会教育研究全国集会（東京大会）博物館分科会	2016年 8月28日	共催
第69回歴史教育者協議会神奈川関東大会プレ企画協力	2017年 8月3日	
第57回社会教育研究全国集会・神奈川集会 報告	2017年 8月27日	

⑤職場体験・博物館実習生などの受け入れ

- ・博物館実習

受入期間	大学名	人数
2011年8月2日～6日	明治大学	1名
2011年8月23日～27日	明治大学	1名
2012年7月31日～8月4日	明治大学	1名

2014年11月25日～29日	明治大学	2名
2016年11月29日～12月3日	明治大学	3名
2017年11月28日～12月2日	東洋大学	1名
	八洲学園大学	1名
2018年11月27日～12月1日	青山学院大学	1名
	明治大学	1名
2019年11月26日～30日	明治大学	3名

・職場（地域）インタビュー

受入日	学校名・学年	人数
2014年11月19日	川崎市立稲田中学校1年生	4名
2015年9月2日	川崎市立稲田中学校1年生	7名
2017年11月1日	川崎市立稲田中学校1年生	4名
2018年11月1日	川崎市立稲田中学校1年生	3名

・職場体験

受入日	学校名・学年	人数
2013年8月29日	川崎市立稲田中学校2年生	2名
2014年8月28日	川崎市立稲田中学校2年生	2名
2015年8月19日～21日	田園調布雙葉学園高等学校1年生	2名
2015年8月28日	川崎市立稲田中学校2年生	1名
2016年8月31日	川崎市立白鳥中学校2年生	2名
2017年1月19日	川崎市立稲田中学校2年生	1名
2017年2月9日～10日	川崎市立生田中学校2年生	2名
2018年8月29日	川崎市立稲田中学校2年生	3名
2019年8月30日	川崎市立稲田中学校2年生	3名

(8) 資料利用・閲覧依頼件数

年度	データ貸出・撮影			資料館紹介 パネル データ貸出	資料 閲覧	計
	出版用	放送用	その他			
2013	6	1	6	0	4	17
2014	—	—	—	—	—	34
2015	22	7	14	3	4	50
2016	7	3	4	1	6	21
2017	14	2	1	2	4	23
2018	10	4	2	8	0	24
合計	(59)	(17)	(27)	(14)	(18)	169

2018年3月末現在（2014年度は内訳記録なし）

(9) 資料館主催見学会

月 1～2 回，土曜日に開催。ガイドは山田朗（館長）または渡辺賢二（展示専門委員）。

年度	回数	参加者数
2010	7	120
2011	31	322
2012	32	354
2013	33	539
2014	23	385
2015	21	347
2016	22	412
2017	22	414
2018	22	390
合計	213	3,283

2018 年 3 月末現在



山田朗（館長）



渡辺賢二（展示専門委員）

(10) 『資料館ガイドブック』発行

来館者に無料で配布中。A4 オールカラー，全 30 頁。

・ 2012 年 3 月 第 1 版，2019 年 3 月 第 5 版発行

(11) 多言語対応

- ①資料館展示室概要英文資料製作（協力：Mark Schreiber 氏）
- ②資料館ホームページ英語・中国語・ハングル対応
- ③館外設置看板英語表示追加（協力：矢ヶ崎淳子法学部教授）
- ④広報課事業「フォーリン・プレス・センター ツアー」外国人記者向け証言会およびフィールドワークほか協力（2015 年 6 月 8 日）
- ⑤スペース・ムウ製作『蘇る登戸研究所』DVD 英語字幕版製作
（協力：矢ヶ崎淳子法学部教授）

(12) 設備の充実

- ①登戸研究所関連史跡 看板設置（2013 年 3 月～2014 年 5 月）
生田キャンパス構内 9 ヶ所の登戸研究所関連史跡に設置
- ②関連史跡補修（2013 年 5 月）
 - ・ 図書館前消火栓 台座補強
 - ・ 旧弥心神社 柵付替え，鳥居台座補修とペンキ舗装および階段手すりの設置
 - ・ 動物慰霊碑 階段補修，背面へのアプローチ設置



動物慰霊碑と設置された看板

- ③倉庫跡（2ヶ所）整備，公開開始（2013年6月～）
- ④資料館裏倉庫跡 屋根補修（2015年度）
- ⑤展示ケース新造（随時）
- ⑥展示室照明のLED化（2012年4月～順次）
- ⑦各展示室設置展示解説ビデオおよびDVD「蘇る登戸研究所」証言部分書き起こしシート作製（2019年度）
- ⑧資料館入口周辺の外周路面処理（随時）

3 資料

(1) 所蔵資料点数

2019年12月末現在 1,935件 全4,023点

(2) 証言収集状況

年度	人数	年度	人数	年度	人数
2010	59名	2013	32名	2016	21名
2011	56名	2014	23名	2017	26名
2012	20名	2015	32名	2018	2名

2018年3月末現在 合計 延べ271名

- ・証言者：元登戸研究所勤務員，元陸軍技術研究所勤務員，元風船爆弾動員学生およびその遺族など



元登戸研究所勤務員から聞き取りをする渡辺賢二展示専門委員

(3) 資料貸出

期間	資料名	貸出先，会場，展覧会名
2011年 6月5日	「石井式濾水機濾過筒」	登戸研究所保存の会，川崎市平和館
2011年 7月16日～ 9月4日	「石井式濾水機濾過筒」， 「雑書綴(複製)」ほか	埼玉県平和資料館テーマ展「戦争と動物たち」
2011年 9月5日～ 9月9日	「石井式濾水機濾過筒」	川崎市立東生田小学校「平和展」
2011年 10月29日～ 12月14日	「石井式濾水機濾過筒」	調布市郷土資料館明治大学内遺跡調査団 企画展「下原・富士見町遺跡の調査」
2012年 8月24日～ 8月26日	第2回企画展「風船爆弾の風景2011」展示パネル一式および写真，補足パネル	逗子葉山9条の会「逗子平和デー」

2012年 9月14日～ 10月8日	「石井式濾水機濾過筒」 (2点)	「戦争と医の倫理」を検証する会, 立命館大学国際平和ミュージアム「戦争と医の倫理」展
2014年 7月4日～ 7月31日	第4回企画展「本土決戦と秘密戦」展示パネル一式	長野県辰野高校 文化祭
2015年 7月25日～ 9月15日	「時計式時限装置一号と 思われる時計」ほか	長野県立歴史館 戦後70年企画「長野県民の1945ー疎開・動員体験と上原良司ー」
2015年 10月24日～ 12月3日	第5回企画展「紙と戦争」 展示パネル一式	青森県近代文学館企画展
2018年 7月14日～ 9月9日	「石井式濾水機濾過筒」, 「伊那工場構成建物及坪数調書」	登戸研究所調査研究会, 駒ヶ根市立博物館「上伊那における陸軍登戸研究所」
2019年 2月23日～ 4月14日	「石井式濾水機濾過筒」	すみだ郷土資料館 企画展「東京大空襲ー罹災者・救護者・戦争遺跡ー」
2019年 7月23日～ 8月18日	『故北沢隆次追憶集』, 「北沢隆次氏より木下先生宛私信」(3点), 第9回企画展「帝銀事件と登戸研究所」展示パネル	登戸研究所調査研究会, 駒ヶ根市立博物館 「長野県に疎開した登戸研究所と帝銀事件」
2019年 11月21日～ 11月24日	「石井式濾水機濾過筒」	京都大学戦争遺跡調査会

(4) 他館への資料譲渡

- ・「M47A2 焼夷弾」1点 (寄贈先: 宇都宮市教育委員会文化課文化財保護グループ, 2011年5月12日)
- ・「石井式濾水機濾過筒」6本 (寄贈先: 中国・黒竜^{ヘルピン}ハ爾濱市 侵華日軍第七三一部隊罪証陳列館, 2010年11月23日)

4 広報

(1) ホームページ URL <https://www.meiji.ac.jp/noborito/>

開館時以来当館広報活動の主たる手段であるが、2013年度より過去のイベントの記録として企画展パネル、講演会等各種イベントを再録し公開することによりアーカイブ機能を加えた。

(2) SNS

2013年5月6日、Facebook、Twitterにより職員がイベントの周知の投稿などを開始。2018年5月よりインスタグラムを開始、イベント動画のライブ配信なども行っている。

<Facebook> <https://www.facebook.com/Noboritoshiryokan>

<Twitter> https://twitter.com/meiji_noborito

<Instagram> https://www.instagram.com/meiji_noborito/

(3) 『資料館だより』

一般、学内へ毎号約2,000部配布している。

*資料館 HP で公開 <https://www.meiji.ac.jp/noborito/report/index.html>

号	発行日	号	発行日
第1号	2010年 7月26日	第10号	2014年 4月22日
第2号	2010年10月15日	第11号	2015年 1月22日
第3号	2011年 5月21日	第12号	2015年10月 7日
第4号	2011年12月 8日	第13号	2016年 4月13日
第5号	2012年 6月20日	第14号	2017年 1月18日
第6号	2012年12月20日	第15号	2017年 4月19日
第7号	2013年 3月22日	第16号	2018年 1月27日
第8号	2013年 7月12日	第17号	2018年12月 1日
第9号	2013年 2月14日	第18号	2019年 9月20日

5 刊行物

- (1) 山田朗・明治大学平和教育登戸研究所資料館編『陸軍登戸研究所＜秘密戦の世界＞』
(明治大学出版会, 2012年)

- (2) 『明治大学平和教育登戸研究所資料館 館報』
第5回以降の企画展記録と年次報告を掲載している。

*資料館 HP <https://www.meiji.ac.jp/noborito/report/index.html> ならびに

明治大学学術成果リポジトリ https://m-repo.lib.meiji.ac.jp/docs_site/index.html で公開

号	年度	発行日
第1号	2015年度	2016年3月25日
第2号	2016年度	2016年9月30日
第3号	2017年度	2017年9月1日
第4号	2018年度	2018年9月1日
第5号	2019年度	2019年9月25日
第6号	2020年度	2020年9月発行予定

以上

アクセス

小田急線「生田駅」から来館される場合

南口より徒歩 15 分

※地域産学連携研究センターからエレベーター・エスカレーターをご利用いただけます。(日・祝除く午前 8 時～午後 6 時半。運転時間等については今後変更になる場合がございます。)

小田急線「向ヶ丘遊園駅」から来館される場合

北口から小田急バス「明大正門前」行きに乗り、終点で下車

※外来者用の駐車スペースがありませんので、お車でのご来館はご遠慮ください。



利用案内

開館時間 水曜～土曜 午前 10 時～午後 4 時

入館料 無料

休館日 日曜～火曜, 8月10・12日, 年末年始(12月26日～1月7日), 入試実施日

団体予約について

団体見学(10名以上)の場合は、事前申し込みが必要です。

見学希望日の1か月前までに電話またはEメールにてお申込みください。

団体見学に関する内容や受け入れ人数についてはご相談ください。

※団体見学に限り、日曜日の見学予約を受け付けております。希望される場合はお問い合わせください。

※団体の重複等により予約をお受けできない場合があります。

明治大学平和教育登戸研究所資料館

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田 1-1-1 明治大学生田キャンパス

TEL/FAX : 044-934-7993

E-MAIL : noborito@mics.meiji.ac.jp

URL : <http://www.meiji.ac.jp/noborito/>

twitter : http://twitter.com/meiji_noborito

facebook : <http://www.facebook.com/Noboritoshiryokan>

明治大学平和教育登戸研究所資料館 開館10周年記念誌 10年のあゆみ

2020年3月29日 発行

編集兼
発行者

明治大学平和教育登戸研究所資料館

〒214-8571 神奈川県川崎市多摩区東三田 1-1-1

明治大学生田キャンパス

電話 044 - 934 - 7993

印刷所

よしみ工業株式会社

〒804-0094 福岡県北九州市戸畑区天神 1-13-5

電話 093 - 882 - 1661



明治大学平和教育登戸研究所資料館